

More Fun さらに楽しもう!
津山市

周辺スポット



津山洋学資料館

江戸時代に西洋からもたらされた「洋学」の歴史をたどる資料館。杉田玄白らの下で蘭学を修めた津山藩医の宇田川玄随をはじめ、津山ゆかりの洋学者の功績も紹介しています。

津山市西新町5 ☎0868-23-3324 9時～17時 月曜(祝休日の場合は翌平日)、祝休日の翌平日、12月29日～1月3日 一般300円、高校生・大学生・65歳以上200円、中学生以下無料 10台(無料)



PORT ART&DESIGN TSUYAMA

市指定重要文化財、旧妹尾銀行林田支店を活用したアートギャラリー。赤れんがの壁と仏閣を思わせる本館のコントラストは、大正口マン期の華やかさを今に伝えています。

津山市川崎823 ☎0868-20-1682 10時～18時 火曜(祝休日の場合は翌平日)、祝休日の翌平日、12月29日～1月3日 無料 5台(無料。同施設から西へ100m、障害者用1台は敷地内)

グルメ



そずりバーガー

津山名物、骨から削り取った牛肉「そずり肉」を使ったバーガー。「そずり」とは津山方言で「削る」の意。つなぎなしのパテは肉のうま味を存分に味わえます。バーガー700円、モカオレ450円。

コーヒースタンド福寿湯

津山市勝間田町5 ☎090-7771-4985 10時～18時(不定期で18時～21時にバーを営業) 月曜(その他臨時休業あり) 1台(無料)



じっくり見てみよう

- 1 D51形蒸気機関車をはじめ、ディーゼル機関車や気動車など13両を展示。
- 2 煙で暗くなりがちな車庫には、採光のための広いガラス窓が設けられています。
- 3 扇形庫や津山の町並みを再現したジオラマも。



岡山県津山市

きゅうつやませんけいきかんしゃこ

旧津山扇形機関車庫

津山市大谷
完成年:1936(昭和11)年
形式:扇形庫 用途:機関車の整備・収容
延べ床面積:2,527㎡
車庫の奥行き:22m
屋根高:6.7m～8.45m
収容数:最大17両 鉄道記念物(転車台含む)



鉄道の要衝で
燃料や水を補給した
蒸気機関車の整備基地

姫路駅と新見駅を結ぶ姫新線の全線開通に伴い、1936(昭和11)年、岡山駅へ至る津山線、鳥取駅へ至る因美線との中継点でもあった津山駅に扇形機関車庫が造られました。当時の鉄道輸送の主役、蒸気機関車を整備・収容するための施設で、各線を走っていたC11・57・58形が必ず停留して燃料や水を補給したといえます。

転車台を要に放射状に延びる線路上に立ち、扇のような弧を描く扇形庫は、多数の機関車を効率的に収納できるのが特徴。かつて最大17両を収容したコンクリート構造の巨軀は、現存する中では国内2番目の規模です。背面に設けられた大きなガラス窓から差し込む光が内部を照らし、往時の作業風景を浮かび上がらせます。

ディーゼル機関車や気動車の台頭により役目を終えて約半世紀後、2016(平成28)年には岡山の鉄道史や鉄道の仕組みが学べる展示室を併設した見学施設「津山まなびの鉄道館」としてリニューアル。全国から多くの鉄道ファンが集うスポットとなっています。



●津山まなびの鉄道館 ☎0868-35-3343 9時～16時(入館は15時30分まで) 月曜(祝休日の場合は翌平日)、12月29日～31日 一般310円、小・中学生100円、小学生未満無料 35台(無料) ●中国自動車道「津山」ICから約15分



識者に聞く!

今も現役の
車両整備施設です

西日本鉄道OB会津山支部支部長(元JR職員)
藤井 将宏さん

蒸気機関車の駆動には燃料となる石炭はもちろん、何トンもの水が必要です。近くに一級河川の吉井川があったことも、津山駅に機関車庫が置かれた要因の一つだったでしょう。県内にあった岡山駅、新見駅の扇形庫はいずれも解体されましたが、津山駅の扇形庫は免れました。津山駅には今も車両基地があり、現役の整備施設としても利用されています。